## 2000年9月29日から30日のできごと
## 他の生徒と陵平の体験の違い

**共通の体験**

**29日 昼**
昼休みに、一人の生徒がお菓子を食べていたことを、「におい」で生徒指導主任が発見。

**29日 午後**
2年5組の帰りの会で「他にお菓子を食べた子は？」と聞かれ、陵平が手を挙げる。

**29日 16:30**
会議室で9名の生徒と12名の教師により指導。お菓子の数と人数が合わないなどの聞き取りにより最終的に21名の生徒に。

**29日 18:00**
お菓子について、その他のまずい点、学級・学年に貢献できることを反省文に書くように指導を受ける。

**陵平以外の20名の体験**

**30日 午前**
反省文を提出。今晩担任が親に電話をすること、その前に自分から親に話をすることなどの指導を受ける。

**陵平だけの体験**

**30日 午前**
以前から予定されていた検査のため、学校を休み、病院に行く。

**30日 21:10**
突然、I担任から母親への電話。お菓子を食べた、ライターをもってきた、保護者に学校に来てもらう、生徒には決意表明をなどの連絡。

**30日 21:20**
母親、陵平に事実を確認する。来週母親が学校に行くこと、決意表明をするとのことなので準備をするように伝える。

**30日 21:30**
母親に知られてしまったこと、母親が学校に呼ばれること、リーダーである自分がみんなの前で決意表明をしなくてはいけないこと等で、ショックを受けたと思われる。

**最後の40分間**
自室の机で反省文・遺書を書く。

**30日 22:10**
自宅マンションから飛び降りる。

### うち砕かれた尊厳、そして自尊心。

**9月29日、いつもより遅く帰宅した陵平は、「どうしたの？中央委員会？」と言う母親の問いかけに「うん」と答えていました。その日学校で起きたことを、どうしても母親に言えなかったのでしょう。しかしそれは、翌日の担任からの予期せぬ電話によって、母親の知るところとなりました。さらに、ライターをもっていったことも。そのうえ、来週学校で、みんなの前で「決意表明」までしなければいけないことを知らされます。**
**リーダーである自分が、決まりを破ったことに自責の念を感じていた彼にとって、この追い打ちは死を決意するに足る重大な出来事であったと想像できます。**

### これがどうして「指導」でないのか。

**新座二中の校長は、9月29日の1時間30分の指導は単に「事実確認」であり「指導」ではないと言っています。さらにそこには威圧的な態度も、無理強いもない、従って陵平の死は学校の行為に起因するものではないという結論を出しています。「事実確認」が威圧的でない、と判断できるのは生徒本人なのではないでしょうか。**
**そして、9月29日の1時間30分の指導だけでなく、その後の担任からの電話、そこで伝えられた内容を合わせても「指導」ではないと言えるのでしょうか。**
**学校側の一連の行為が陵平にとってどのような体験だったかを考えなければならないはずです。陵平以外の20名の生徒にも、私たちにも調査を行なわず、教師からの聞き取りだけで「問題はない」と言い切ることが、本当にできるのでしょうか。**